

第33回ビジネス日本語研究会
プロジェクト型学習(PBL)への挑戦
～海外と国内の事例から～

趣旨説明・話題提供
これからのプロジェクト型学習において
～ビジネス日本語教育におけるPBLの意義と課題～
13:30-13:50

2022.6.11

堀井恵子
武蔵野大学名誉教授



趣旨説明・話題提供

- BJ教育におけるPBLの海外・国内の実践例を紹介し、PBLが育成する要素を確認、参加者それぞれの実践につなげられる機会とする
- 話題提供：**なぜPBL？BJとPBL, 最近PBL例**

*資料は終了後HPにアップします。

なぜPBL？



日本語学習者・留学生とともに37年、学習者のニーズに沿って
JGP→アカデミックジャパニーズ教育→ビジネス日本語教育

元日本語OPI研究会長・元AJG事務局、BJ研究会初代代表幹事現事務局長

2006年：経済産業省委託事業「アジア人財資金構想共通カリキュラム・教材開発委員会」委員をしたら・・

→ここで開発した**教材はすべてPBL**

<https://www.aots.jp/jp-learning/aots/resources/>

→大学院にBJコース開講、実践(15年)してみると

→PBLはやってみないとわからない・・・おもしろい！

BJとPBL

経済産業省産業人材参事官室(2007)「外国人留学生向けの研修のあり方について」

求められる能力

①ビジネス日本語力

・状況に応じた適切な言語使用 ・非対面コミュニケーション ・文書読解作成 等
(例) 打ち合わせ、報告書作成、社内メール連絡 等

②ビジネス文化・知識

・仕事の進め方 ・業界や経済界の知識 ・キャリアに対する考え方 等
(例) 「ホウ・レン・ソウ」の習慣、社内分業体制、コンプライアンス意識 等

③社会人としての行動能力 (社会人基礎力)

・積極性 ・協調性 ・柔軟性 ・傾聴力 ・発信力 等
(例) わかりやすいプレゼンテーション、説得的な議論、チームによる活動 等

グローバル人材としての幅広い能力

・異なったものを受け入れる力 ・ある事象を複数の観点から検討できる力

これらの能力を包括的に育成し、社会人として日本語を用いて業務を行えるような人材を養成するために、Project Based Learningによる体験的活動を通じた学びが必要

アジア人財資金構想 共通カリキュラムコンセプト(2007)

外国人留学生が日本の産業社会で必要とされる総合的な能力をProject Based Learningで身につけることで、学内教育から企業内教育へのソフトランディングを目指します。

語学教育におけるProject Based Learningの特徴としては、以下の点が挙げられます。

- ①学習者の言語学習の目的が、語学そのものではない
- ②言語は一義的には道具である
- ③「学ぶべき対象」を「その言語」で学び、その過程で必要なスキルが結果として学習される

留学生・学生
対象のPBL

ちなみに、PBLは二つある・・・

溝上慎一(2016):

二つのPBLはアクティブラーニングの一つ

Problem-based learning:問題解決学習、Project-based Learning:プロジェクト学習、プロジェクト学習とは、

実世界に関する解決すべき複雑な問題や問い、仮説を、プロジェクトとして解決・検証していく学習のことである。

学生の自己主導型の学習デザイン、教師のファシリテーションのもと、問題や問い、仮説などの立て方、問題解決に関する思考力や協働学習等の能力や態度を身につける。

→BJでPBLを行うとリアルであることが求められるため「ごっこ」にならない。

BJとPBL 堀井(2010)

活動型

・必然的に**実際使用**場面が多くなる。

・調査、インタビュー、ビジターセッションを通して、さまざまな**インターアクション**が行われ、「場面・目的に応じて適切に使い分けるコミュニケーション能力」、電話対応/メールなどの「非対面」コミュニケーション能力、ビジネスレター作成、プレゼンテーションや会議などの**複合的な日本語コミュニケーション能力(待遇表現を含む)**、そして**ビジネススキル/マナー**も育成することができる。

・PBLではチームによる作業が多いので、**チームワーク**も養われる。プロジェクト達成のためには、なによりも学習者自らが**問題点を発見し問題解決**をしていくことが必要とされる。

(留学生に対する)BJ教育の3本柱

(堀井2008)

- ①日本語による**ビジネスコミュニケーション**
- ②**異文化調整能力**
- ③日本語による**問題発見解決能力**

⇒これらを**総合的に**身につける方法がPBL

知識やスキルを越えた能力が必要

それを育成するのがアクティブラーニングによるPBL

最近のPBL例(中級)

- コロナ禍で留学に来られなくなった東南アジアの協定大学学生対象
 - 講座名: アクティブ・ラーニングによるビジネス日本語コミュニケーション
 - 受講生日本語レベル: CEFR A2 またはJLPT N3以上(中級以上)
 - 開講日時: 2021年4月24日(土)~6月5日(土)、
毎週土曜日①11:00~ ②13:30~(日本時間)、2クラス
 - 回数: 週1回授業100分×7回
 - 方法: Zoomによるライブ・オンライン
 - 内容: ①BJ聴解、②BJ口頭表現、③BJ文書理解、④BJ文書作成、⑤BJ異文化コミュニケーション、⑥BJ総合、⑦BJパフォーマンス(振り返り)をメインシラバスとし、
毎回、文化学習とプロジェクト型学習の3つのパートから構成した。
- *学習者の母語はタイ語、ベトナム語、クメール語、英語/中国語⇒日本語が必要

振り返りから(PBL関連一部抜粋)

- 知らなかった人とプレゼンテーションをやって、現実の仕事と同じです。誰かと一緒に仕事を成功させなければなりません。
- 違う文化を持つ人とプレゼンをしました。これは新たな経験で、発表の本番までワクワクしていました。初対面のメンバー3人でスタートしたので、初日はうまく意見や作業がかみ合わず、停滞する場面もありました。そのため、お互いを徐々に理解したうえで、担当の見直しを行ったところ、とてもスムーズに課題に取り組むことができ、とても素晴らしい発表ができたし、ベストプレゼン賞をいただきました。この経験から、メンバーの個性や得意分野をお互いに知ることが、チームで仕事を進める上での基礎になることを実感できました。受講する前と比べたら、異文化を持つ人ともっと協力して仕事ができたらきっといい挑戦と経験になるでしょうと思うようになりました。楽しい社会人として自分を養って活躍したいです。

振り返りから(PBL関連一部抜粋)

- プロジェクトをするのはいろいろな文化が違う人と話せて、いろいろ勉強できてとても楽しかったです。コミュニケーションだけではなく、文化が違う人と仕事するならどうすれば成功できるかと勉強になりました。
- プロジェクトを通じて異文化コミュニケーションの能力とチームワークスキルを高めることができました。タイとかシンガポールといった外国人の友達と知り合うチャンスがあり、一緒にプロジェクトを完成し、またラインで学生生活やコロナウイルス状況などをおしゃべりしました。本当に楽しかった。ゼミナー受講前の自分と比べて、外国人と話すときもっと自信を持つようになりました。
- カンボジアの歴史から、ベトナムとタイランドとのコミュニケーションは悪かったので、私はタイ人とベトナム人の友達がありませんでした。タイ人とベトナム人が嫌いでした。しかし、このセミナーに参加した後、タイ人とベトナム人が嫌いな気持ちがなくなり、皆さんといい仲間になりました。それは素晴らしいチャレンジ、新しい経験になりました。それから、発表する方法が分かるようになりました。以前スライドの中に何か内容を入れていることが分かりませんでした。しかし、先生から教えて、以前より分かるようになりました。

このPBLの場合

①日本語によるビジネスコミュニケーション:

授業外にFacebook, LINE, などを活用しプロジェクトについて日本語でなんども相談

②異文化調整能力:オンライン上だったが、チームでゴールに到達するために、異文化を越えて共有点を見つけた

③日本語による問題発見解決能力:プロジェクトのテーマ設定、調査方法を考え実行、プレゼンテーションによる主張にまとめる

*自己評価、相互評価、教員からのコメント

日本語教師がPBLをやらない理由

- 所属機関のカリキュラムにない
⇒ないけどいいものは何とか入れていく努力
- やり方がわからない
→**やってみなければわからない**←やることでできるようになる
- 時間・期間が必要
→3日でも問題なくできた
- ダラダラして日本語がうまくなったかわからない
- チームで積極的にやる人とやらない人が出る
→やり方次第→ALはやってみて改善をしていくもの…
やらない理由は山のようにあるものですが…

アクティブ
ラーニング

まとめ：BJのPBLは

- リアルティのあるリソースを使った活動
- 知識：必要な業界基礎知識＋必要な語彙
- スキル：必要なビジネススキル＋コミュニケーションスキル
- 問題解決能力：イノベーションを目指し多文化チームで考え、相談し、企画、発表する
- 協働による問題発見解決、異文化調整
- 知識、スキルを越えた能力を身につける学習法

教師も発見
とっても
楽しい

ぜひ、やって
みてください

参考文献

- 海外技術者研修協会(2007)「日本企業における外国人留学生の就業促進に関する調査研究」報告書 平成19年
https://www.aots.jp/jp/project/nihongo/asia/r_info/pdf/press081012.pdf
- 海外技術者研修協会(現・海外産業人材育成協会)(2011)「留学生のためのビジネス日本語シリーズー人財ー」<https://www.aots.jp/jp-learning/aots/resources/>
- 経済産業省産業人材参事官室(2007)「外国人留学生向けの研修のあり方について」
- 溝上慎一(2016)「アクティブラーニングとしてのPBL・探究的な学習の理論」溝上慎一・成田秀夫編『アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習』東信堂, pp.5-23
- 堀井恵子(2010)「プロジェクト型ビジネス日本語教育の意義と課題」『武蔵野大学文学部紀要』第11号,pp.47-57
- 堀井恵子(2015)「ビジネス日本語教育の課題再考ーコース・デザインとPBL,シニアサポーター活用ー」ビジネス日本語教育の展開と課題, pp.125-142、ココ出版